

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		一般小売店〔書籍〕 （従業員）	・定額給付金の影響もあり、顧客の消費動向も上向いてくる。
		コンビニ（経営者）	・定額給付金の給付が行き渡り、様々な景気対策が報道され、これらのアナウンス効果から財布のひもが緩むことを期待している。
		家電量販店（経営者）	・店頭での接客においても、以前ほど先行きの不安感を語る客が少なくなった。
		家電量販店（店長）	・エコポイントの活用によるグリーン家電普及促進事業により買換え特需が起きる。特にTVはアナログ放送終了まで2年となり、このポイントはかなり期待ができる。
		乗用車販売店（総務担当）	・新型ハイブリッド車が5月から発売され、予想以上の人気当面続き、販売の上乗せが期待できる。
		自動車備品販売店（従業員）	・経済政策が消費につながり、一時的には好転する。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・前月までは消費者は必要で安いものしか購買しなかったが、今月に入って徐々に健康食品や化粧品などの付加価値商品が売れ始めている。この流れが続くものと期待している。
		旅行代理店（従業員）	・景気の下げ止まり感が、企業の販売促進・需要促進に影響を与え、団体旅行やMICE（コンベンション等）市場に活気が出てくると期待が持てる。
		通信会社（職員）	・地元の高速道路の通行量が徐々に増加していることが実感でき、消費意欲は若干上向くと期待できる。
		通信会社（社員）	・携帯電話の新機種発売効果に期待している。
		通信会社（営業担当）	・新商品の発売により、若干の売上増加は見込めるが、端末価格が高いため大きな売り上げ増にはつながらない。
		住宅販売会社（経営者）	・見込み客の動向がやや良い。
		変わらない	変わらない
一般小売店〔精肉〕 （店長）	・競合店のリニューアル等により販売は苦戦している。定額給付金の給付などの施策により客の買い回りモチベーションを上げていく。		
百貨店（売場担当）	・消費者の消費意欲が全く感じられない。		
スーパー（店長）	・定額給付金の給付により、消費者の購買意欲は若干上がるであろうが、売上は瞬間的で大きな変動はない。		
スーパー（営業担当）	・定額給付金は食料品に消費される傾向があり、景気の底上げにはつながらない。消費者は無駄遣いはしない。		
コンビニ（経営者）	・近隣に競合店の開店が予定されており、当初は売上が減少するものの、同時期開催のイベントによる売上増が期待され、相殺される見通し。		
コンビニ（店長）	・今が下げ止まりの感があるが、しばらく現状が続く。客の話では、会社はこれ以上悪くならないとしており、産業界の回復とともに経済は良くなっていく。		
家電量販店（店長）	・消費を刺激するような施策が不明瞭である。企業の減収により、給与・賞与などの減額が予想されるため、消費の落ち込みが予想される。		
乗用車販売店（経営者）	・軽自動車やハイブリッド車に偏った需要が中心で、全体の需要を押し上げないと販売量悪化のイメージは変わらない。		
高級レストラン（スタッフ）	・観光地であるだけに高速道路料金引下げには期待をしているが、現状の予約状況では明るい兆しは見えてこない。		
観光型旅館（スタッフ）	・予約は前年を大きく下回っており、底はまだ見えない状況にある。4月からの四半期は前年比20～30%減を見込んでいる。		
通信会社（役員）	・地上アナログ放送の終了まで残り2年余りとなり、消費者の意識の高まりとともに、当社経営資源もデジタル契約増に重点投入を予定しており、引き続き契約者数の増加が期待できる。		
やや悪くなる	やや悪くなる	一般小売店〔鮮魚〕 （従業員）	・個人は4月から給与減額などで可処分所得が減り、消費行動はいっそう慎重になる。
		百貨店（売場主任）	・依然、政局も不安定であり、定額給付金の給付も大きな消費効果を生み出すにはまだ時間がかかりそうである。また、サラリーマンは給与減額のカバーで終わり、プラス消費を見込めない。

		スーパー（総務担当）	・近隣にある工場の稼働日数がまだ増加していないため、今後も消費の減少傾向は収まらない。
		コンビニ（経営者）	・低価格商品の動きだけが非常に良く、一点買いをする消費者が目立って多くなってきた。今後も客単価の下落傾向が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・最近の新型インフルエンザの報道などにより、外出を控えることが予想され、売上が低下することを心配している。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・世界的な経済の落ち込みは当面続く。また、新型インフルエンザの影響により、人の動き、物の流れ、金の流れが悪くなる。
		一般レストラン（スタッフ）	・新型インフルエンザの影響で海外旅行者は減り、外出自体を控える人が増える。さらに、大手の各外食産業がランチセットなどを値下げしてきており、中小企業が価格競争で値下げしても利益を圧迫し、人件費の削減になりかねない。また、来年の新卒採用を控える企業、営業所の統廃合による人員削減などコストを抑える傾向にある。
		スナック（経営者）	・もう一段下がる気配があるとの話や、一部動きがあるところも出てきたが、全体的には悪いままであるとの会話を耳にする。
		観光型旅館（経営者）	・売れている商品は低価格商品のみであり、また予約の間際化により先行きが読みづらくなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・利用客数の低迷が続く不安材料となっている。特に法人利用に先行き不透明感が強い。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約は今一つであり、リニューアル効果も薄れつつある。
		タクシー運転手	・依然として明るい材料がない。また、高速道路が安くなったため、週末にはマイカーでの観光客が以前より増加し、タクシー利用が減少し厳しくなる。
		タクシー運転手	・4月後半には増えたタクシー利用であったが、一時的なものだと判断している。来月以降は元に戻る。
		競輪場（職員）	・購買単価が下がる傾向に歯止めがかからない。
	悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・取引先からは、6、7月は公共事業の予算が執行されない時期であり、今から建物投資や設備投資など民間に営業を仕掛けるしかなく、現状からは浮揚する要素が見つからない、と聞いている。
		百貨店（営業担当）	・高速道路料金引下げで客はアウトドア関連の活動に関心が向いており、百貨店のファッション関連の支出に対する優先順位は低い。また、夏に向けての季節商材の生産・供給状況は前年の半分程度しかない。そのため小売店にも商品が回ってこず、売る機会さえ減少する見通しである。
		百貨店（営業担当）	・売上実績に回復の兆しがなく、販売側の体力切れが目立つようになってきており、見通しは暗い。
		衣料品専門店（経営者）	・来客数が増えているが売上が増加しない。客の財布のひもが固い証拠である。このままでは、安い商品にはばかり目が行き、従来どおりの売上を上げるには難しい。安い商品を投入しながら、売上を上げられる方法を見つけていくしかなく、現状の悪さが続く。
		住関連専門店（店長）	・客が増加する兆しがなかなか見えない。見込みがたたない。
		旅行代理店（従業員）	・粗利の高い団体旅行などの落ち込みが激しく、完全に赤字になる。
		テーマパーク（職員）	・企業、団体や募集旅行については先行きの予約状況が大変厳しくなっている。一方、個人旅行は、消費の冷え込みが予想され下ぶれする可能性がある。
		住宅販売会社（従業員）	・地域基幹産業が不況に伴い大幅な人員整理を発表した。地域経済に与える深刻さが一段と表面化し、他の主力業種も自宅待機などで景況が回復せず、将来の雇用不安が深刻化している。
		住宅販売会社（従業員）	・毎年春の需要は4、5月には感じられるのだが、今年は前年比約3割減の契約状況であり5月に向けての見込み客の動きが非常に少ない。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・衣料以外の車両関連でわずかながら動きが見られる。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・底を打った感がある。回復と後退を繰り返しながら徐々に良くなっていくことを期待している。
		輸送業（配車担当）	・現在が底であり、連休明けからは少し荷動きが良くなる。
	変わらない	プラスチック製品製造業（企画担当）	・受注の状況を見ても、現状より良くなる要素がない。回復するには6か月から1年程度を必要とする。

		一般機械器具製造業（経理担当）	・受注状況からも回復するとは考えにくい。販売量からも各社の在庫調整にはもう少し時間がかかる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・この春開発した新商品に関しては非常に好評で増産を見込んでいるが、一方では従来商品の量的下方修正などもあり、総量的には変わらない状況が続く。
		輸送業（配車担当）	・製造業での在庫調整、生産調整の影響で、ここ2、3か月は物が動かない。
		金融業（融資担当）	・定額給付金の給付や高速道路料金引下げなどで家計の財布は緩むことも考えられるが、雇用状況が良くならないので現状の景況感が続く。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・好転する材料がないなかで地場のスーパーが出店を計画しており、その影響で現在の落ち込みをカバーしきれそうにもない。
		司法書士	・事業継承者がいないこともあるが、事業を廃業する人が目立ってきている。
	やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・プライベートブランド品の台頭が言われ、さらに小売業界からナショナルブランドの定番商材も見積価格の再提出が求められている現況では、納入価格の下振れが顕在化してくるのが目に見えている。こうした環境ではメーカーの一層の収益悪化が危惧される。
		繊維工業（経営者）	・小ロット化に加え、価格に対する値下げの圧力が強くなりつつあり、売上確保が厳しい。緊急経済対策の効果が早く出て欲しい。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・これ以上下がれない状況まで来ている。横ばいで推移するが、いつ上向くか予想ができない状況である。
		金融業（融資担当）	・悪化のスピードはやや弱まった感があるが、上向く兆しについては不透明感が残っている。
		税理士（所長）	・現在の対策では、大企業や輸出企業は恩恵にあずかれるが、一般中小企業にまで恩恵がない。円安方向への為替施策が最優先課題である。
	悪くなる	建設業（経営者）	・景気回復のために公共事業を増やしても、発注量と業者数のアンバランスは容易には解消されず、ダンピングなど過当競争は減らない。そのため、元請業者も下請業者も建設関連の資材・機材業者も全てが利益を出せないという建設業界の構造は変わらず、景気回復にはつながらない。
		建設業（総務担当）	・予定していた設備投資計画の見送りや様子見の企業が増えており、また、見積件数の減少でさらに受注環境が厳しくなる。
		通信業（営業担当）	・近年にない最悪の状態となっており、中小事業所向けの設備投資が完全に停止状態となっている。富山県は製造業の比率も高いため、それが顕著に現れている。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・離職者は多くなってきているが、製造業の一部企業で受注が増えてきているとの話もあり、今後求人が増えてくる可能性がある。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・依然として派遣需要は少なく、あっても短時間・短期間のものしかなく、引き続き雇用情勢は厳しい。
		職業安定所（職員）	・雇用調整を実施している事業所からヒアリングを行っても、まだ大半の事業所が先行き不透明との回答がみられる。
		民間職業紹介機関（経営者）	・大手のアルミ関連企業の人員削減の発表もあり、企業の雇用に関しては、ここ当分は削減か現状維持が続く。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・顧客の話では見通しが暗く、回復までに長くて3年かかるという話を聞いており、明るい兆しが全く見えない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大量解雇の話は出ているが、大きな雇用の話がでてこない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・学生から就職の内定報告等が聞かれない。
	悪くなる	職業安定所（職員）	・急激な景気低迷により、前月に引き続き中小企業等からの雇用調整助成金の相談が激増している。